

ふるさと農園

3月 啓蟄の月の農園

啓蟄の月ともなると今
まで寒さで変化のなかつ
た畑が明るくなる。



ナノハナが
黄色く一斉
に咲く。エ
ンドウは薫



のマントの
陰で白い花
が下向いて
います。
あれ、あれ、
水菜に花が咲いています。
ソラマメにも花のめかな。

会員だより

熊野古道伊勢路
「松本峠を越せば」

熊野本山へあと一步

熊野古道伊勢路からの参
詣道も今回の松本峠を越
せば、ただ一途、古人に
とっては殆ど満願成就に
近い思いで、歩を速めた
事であろう。三重県の南
端の尾鷲市を過ぎ、熊野
市に入って、大泊海岸で
バス下車。夏の花火大会
には17万人の人が訪れ

ると語り部さんは自慢す
る。きつと太平洋を背に
打ち上がる花火は豪快で
あろう。今日の語り部さ
んは御夫婦で、夫々約20
人のグループを担当され
る。山に入っている間、
夫婦喧嘩しないからと冗
談を言われ、幸せそう。

松本峠は高低差13
5mでちよつと甘くみて
いたが、食後準備運動を
しただけで、登りはじめ
たので、1段1段がきつ
い。江戸時代の美しい石
畳は苔むして自然と歴史
を感じさせてくれる。し
ばらく登ると石畳の凶柄
と言おうか石目といおう
か、勝手の違う所がある。



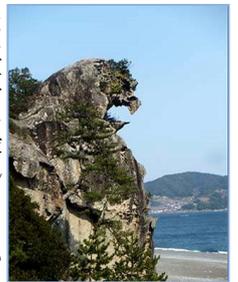
語り部
さんの
説明で
は漁師
と網元
が刃傷
沙汰を
起こす

程の喧嘩をし、奉行所は
お仕置きの変わりにこの
山道の整備を申しつけた
とか。粋な有益な裁きだ。
峠に着くと崖の上に人間
の背丈ほどのお地藏さん
がすくつと立ち、旅人を
見守っている。鉄砲名人

がタヌキの化け物と思い、
鉄砲を打ちこんだという
傷が左の裾の下にある。
展望台から日本渚百選に
選ばれた七里御浜(しち
りみはま)が見事に見渡
せる。この浜は速玉大社
のある新宮まで西に25
K続く。東の海岸には多
娥丸(たがまる)という
海賊が住み着いた鬼ヶ城
という崖つぶちが見える。

この海岸線のあちこちに
奇岩・巨岩があり、夫々
に神様がいたり、伝説が
生まれやすい土地らしい。
峠を下るとそのまま熊野
市の街中に入る。鉄砲火
薬店やレトロな家屋の土
産店やあちこちにお雛様
の展示等で観光客を楽し
ませてくれる。市中にあ
る笛吹き橋は平安時代に
征夷大將軍・坂上田村麻
呂が海賊征伐を祝って、
横笛と太鼓でこの橋を渡
ったとか。

「熊野灘の激しさを
巨岩が守る」
国道42号線を渡ると
目の前はまさに熊野灘。
その海に向かって吠えるが
ごとく口を開けている獅
子岩がある。5月中旬の
朝には朝日を、12月頃の
夕刻には満月を啜える獅



子が写真に撮れるとい
うこと
で撮影場所の取り合
いになるらしい。人面岩
の真中に戸がはめ込まれ
ている。或る時代、牢獄
に使われていたらしい。
展望台から見た七里御浜
を歩いてみる。こんな丸
い石で覆い尽された美し
い海岸は初めてだ。海岸
から花の窟(はなのいわ
や)神社の御神体の巨岩
が私には鼻の顔のように
見える。日本最古の神社
にお参りする。社殿がな
く、この45mの巨岩がご
神体である。2月と10月
に花や扇子を付けた百数
十mの2本の綱を岩の上
から海岸まで氏子や参拝
者や観光客が引つ張る神
事がある。参拝者ははエ
ルサレムの嘆きの壁のご
とく、頭を岩に押し付け
て祈れば良いらしい。御
神体の前に、イザナミノ
ミコトの墓がある。この
神様は多くの神を産み、
最後にこの地で火の神様
を産み、自分の体が焼き

尽くされて亡くなったと
またこれも伝説。
今日歩いた石畳の道も
七里御浜も巨岩群も神社
も世界遺産、石一つ、木
の葉一枚も持ち帰れない。
聖域内にある「なぎの木」
の葉を他所で用意して下
さっていた。日本の暖か
い土地で自生しているが、
熊野地方では神木とされ、
鏡の裏やお守り袋に入れ
て災難除けにするとか、
私も一枚戴いて早速財布
に入れ、遺失除けにした。

S・U

東大寺二月堂修二会

お水取り・お松明

東大寺二月堂の修二会
(しゅにえ)は、天平勝
宝4年(752)、東大寺
開山良弁僧正の高弟、実
忠和尚によつてはじめら
れたと伝えられます。
以来一度も途絶えること
なく続けられ、平成27年
(2015)には1264
回を数えることになり
ます。この法会は、現
在では3月1日より2
週間にわたって行われ
ていますが、もとは旧
暦の2月1日から行わ
れていましたので、二
月に修する法会という

意味をこめて「修二会」
と呼ばれるようになりました。また二月堂の名も
このことに由来していま
す。行中の3月12日
深夜(13日の午前1時半
頃)には、「お水取り」と
いって、若
狭井という
井戸から観
音さまにお
供えする
「お香水」
を汲み上げ
る儀式が行
われます。
また、この行を勤める練
行衆の道明かりとして、
夜毎、大きな松明に火が
ともされ、参集した人々
をわかせます。このため
「修二会」は「お水取
り」・「お松明」とも呼ば
れるようになりました。
今回、知人(講社)の
招待客として観覧させて
頂き、大松明とお水取り
の行の奥深さを知りま
した。篝火だ
けの明かりで
深夜一時半
三時半まで静
寂の中、無言
で行われる厳
肅な行です。



S・O



S・O